

# 高校生防火防災学び啓発

豊田市高校生消防クラブ発足式



発足式に臨んだ豊田市高校生消防クラブのクラブ員ら

## 豊田で消防クラブ発足



児玉増夫消防長から活動着を受け取るクラブ員たち=いずれも豊田市八草町の愛知工業大で

高校生が防火防災を学ぶ「豊田市高校生消防クラブ」が、市消防本部に発足し、市内の十二校に通う男女四十五人が第一期生として活動を始めた。クラブ員は各校の「消防リーダー」として、活動を通して得た知識を、学内での発表会や壁新聞などで他の生徒たちに発信する。

(岸友里)

クラブ員は、市消防本部が四月に市内の全十五高校を対象に募集し、希望者や推薦を受けた生徒が集まった。十一日には、愛知工業大の地域防災研究センター（八草町）で発足式があった。消防士のヘルメットをイメージしたロゴマーク入りの帽子や活動着が、児玉増夫消防長からクラブ員に手渡された。

式後には、初めての活動も。地震工学が専門の同大の正木和明教授の講義を受け、市内にある断層や、地域ごとの震災や土砂災害などの危険性について学んだ。ともに豊田西高一年の野田真未さん（左）は

「同じ市内に住んでいても、地域によって災害に対する警戒心が違ふと感じた」、竹野亜美さん（右）は「南海トラフ地震に備えて、防災の正しい知識を身に付けた人たちが増えるように活動していきたい」と意気込んだ。

今後は、災害時に危険な場所を地図で見極める図上訓練や、火災防本部がクラブを発足させた。

平成29年6月15日（木） 中日新聞より

「この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています」